

ISSN 0918-8770

兵 庫 教 育 大 学

近 代 文 学 雜 志

第三十号〔終刊号〕

2 0 1 9

▲『兵庫教育大学 近代文学雑誌』は本第30号で終刊とする。書誌や本文研究、翻訳が出来たから本誌を発行するのか、本誌継続のためにその類の仕事をするのか、本末転倒のような気もしつつ、院生を巻き込み、同僚にせがんで、漸く30号に至った。終刊の理由は単純、私が2019年3月末日を以て定年退職を迎えるからである。1981年4月に広島大学で助手に採用された時も、1983年4月に移った岐阜大学でも、1987年9月に移った兵庫教育大学でも国家公務員だったのに、今や国立大学法人の教員として退職を迎える。独立行政法人に移行したのに〈独立〉の実質がなく、〈従属〉法人という陰口も叩きたくなる状況は益々悪化しそうな気配だ。よい潮時であろう。

▲本誌発刊は1990年1月10日。ワープロで原稿作成、複写機でコピー、取り合わせたものを印刷屋さんで製本、宛先のラベルを貼った封筒に封入……時間と手間は要したが、発行は容易だった。隠れていた継続への不安が働いたのか、院生・助手時代に関わった『近代文学試論』や『国文学攷』の体験があつて油断したのか、第1号の心づもりでいながら、ウツカリ「第1号」なり「創刊号」なりの表示を落として、所蔵機関によっては第1号が単行本扱いになってしまっている。「兵庫教育大学」というのを冠した誌名では、『兵庫教育大学 近代文学雑誌』なのか、『近代文学雑誌』で済むのか分かりづらい。

▲本号掲載「『兵庫教育大学 近代文学雑誌』総目次」では「編輯後記」を省いたのだが、「編輯後記」の頁には毎号のように「前号訂正」とか「正誤」を掲げている。予算締切に迫られて編輯・校正作業を一人でやるから、このような事態が生じる。

▲そのくせ、同僚に加勢を頼んで雑誌の体裁を整えようとする。特に鈴木敏雄氏には、中国文学の専門家でありながら、第18号以来、玉稿を頂戴して来た。牧戸章、土山和久、河野智文、田中雅和、重見一行、菅井三実、棚田真由美の各氏にも、同僚であるが故に貴重な時間を割いて御寄稿戴いた。一人ひとりの名前を挙げる紙幅はないが、修士論文締切までの時間を都合して寄稿してくれた院生にも深く感謝したい。

▲本誌発刊の頃は、遠くに東京の方角を眺めつつ、井伏鱒二書誌の瑕瑾や誤記・誤植の類を、播州の片田舎で論じて楽しむであろうと未来を思い描いていた（綾目広治・丸川浩・遠藤伸治の3氏と岡山に集まる研究会が絶好の研鑽の場で、ずいぶんと素稿を検討して貰ったが）。院生の論文発表の場であると同時に、そうした書誌や調査結果を発表できる場も兼ねた、自由の利く雑誌が欲しかった。院生とは、掲載の可否は私の専権、掲載論文の表現・表記の細部に関して最終権限は私が握るという、私の独裁が保障される約束であった。

▲本誌掲載の拙稿も含めて、長期計画もないままに、自分の興味に従って調べたり、考えたりすることを楽しんで来た。井伏が描き出した因島という空間の奇妙なところに興味が湧けば、調査のため海事資料センター（現・海事図書館）で船籍類を見たり、今は無くなった交通博物館で時刻表を繰ったり、広島県立文書館で当時の新聞を調査したり、因島では実際に歩いて地名の位置関係を確かめたりもした。聚芳閣発行『文学界』を求めて県立三重図書館へも行ったし、国会図書館や日本近代文学館・神奈川近代文学館で思わぬ人にも会った。本文研究の淵源を知りたくて、翻訳という無謀なことも企てた。そもそも全集未収録作品調査や本文研究についても、きっかけは別として、継続できたのは、私がそれらに興味を持ち、面白く思ったからである。研究動向が気にならなくはなかったが、結局はその時々々の興味に従う我が儘が許される環境にあったということだろう。

▲それが、井伏鱒二歿後、文学展や文学館の構想・企画・展示、また、全集編纂に関わる機会を与えて貰ったり、あるいは、学会誌の編輯委員会に参加することになったり、何やら思わぬ具合に運んできた。

▲記憶の断片を繋げば、今となっては、それぞれの断片を伏線と解することもできなくはない。磯貝英夫先生（学部3年生演習）とA・V・リーマン先生（サバティカルで広島滞在中）のお二人が授業で井伏を取り上げられていたし、1974年3月に始まった増補版『井伏鱒二全集』を広島市内の古書店・アカデミイ書店で予約購読していた。谷沢永一先生に促されて出席した日本近代文学会関西支部研究集会で同世代の友人も得た。その縁で、様々な機会を持つに至った。その時その時は、まさか「伏線」となろうとは思ひもよらず、流れのままに振る舞っていたのだが……。振り返ってみると不思議な感覚を覚える。

▲本誌の編輯後記を書くのもこれで最後だ。「はい左様なら どりゃ お暇」です。 （前田貞昭）

兵庫教育大学 近代文学雑誌 第30号〔終刊号〕

ISSN 0918-8770

〒673-1494 兵庫県加東市下久米942-1

兵庫教育大学大学院 教科教育実践開発専攻  
言語系教育コース（国語）

前田研究室

TEL. & Fax. 0795-44-2083 (ダイヤルイン)

E-mail : sadm@hyogo-u.ac.jp

印刷 株式会社フジワラ 2019年2月10日発行

(非売品)

兵庫教育大学 近代文学雑誌 第30号〔終刊号〕

2019年

目次

井伏鱒二の寄宿舍（福山中学校寄宿舍と誠之舎）在舎時期とその周辺事  
——福山誠之館同窓会架蔵資料調査から—— 前田 貞昭……………三

明の張守約（梅村居士）「擬寒山詩」原詩対照考 鈴木 敏雄……………三三

//////  
『兵庫教育大学 近代文学雑誌』総目次 …………… 1